



山下 聡 Yamashita Satoshi
生物多様性・気候変動研究拠点

ひとくちに熱帯雨林といってもいろいろな森があつて、それぞれにちがつた珍しい生き物たちが生息しています。私たちがこれまで調査をしてきた東南アジアのボルネオ島にもフタバギ林をはじめとするさまざまな森林が広がっています。それらの森林で私たちは、きのここと昆虫を中心に、現地の標本庫に保管されている標本調査と野外での調査を続けてきました。その結果、さるのこしかけとよばれるきのこの仲間では、森林のタイプに応じてきのこの種類が変わることや、倒木の本数が多い森林できのこの種類も多くなるといふ関係が明らかになりました。また、さるのこしかけの仲間でもマンネンタケ属のきのこでは、他のグループ

■ ボルネオの森のきのここと昆虫 ■

さるのこしかけの仲間以外にも、まだまだ未知のきのこがあります。さまざまなきのこ、いろいろな生物との関係は、熱帯雨林の生物多様性の維持に一役買っています。
(2025年7月11日開催講座より)



異なるタイプのマンネンタケ属のきのこに集まった昆虫。右のきのこには、テントウムシダマシ科とゴミムシダマシ科がみられる。左のきのこには、これらのコウチュウ目昆虫に加え、カメムシ目やハサミムシ目などの昆虫もみられる。

2026年度 森林講座のお知らせ

2026年

10月15日(木曜日)

「森林の攪乱と水循環」

小田 智基 (森林防災研究領域)

森林伐採や自然災害などの攪乱を受けると、森林の水循環はどのように変化するのか。また回復にはどのくらい時間がかかるのか。国内外の事例をもとに解説します。

11月11日(水曜日)

「クマはなぜ人里に出没するのか？」

—安定同位体分析から読み解くクマの食生態—

中下 留美子 (野生動物研究領域)

安定同位体分析などの化学分析により、クマの食性や生態を明らかにしてきました。その研究成果から、人里出没の背景を考えます。

12月11日(金曜日)

「セルロース、それは生活に欠かせない木材の成分」

戸川 英二 (森林資源化学研究領域)

木材を化学成分比でみると、その50%をセルロー

スという物質が占めています。このセルロースは姿形を変えて身近なところで広く利用されていることを紹介します。

2027年

1月19日(火曜日)

「樹木の根：地下に隠れたその姿と様々な役割」

野口 享太郎 (立地環境研究領域)

地下に隠れて普段は目にするこことのない樹木の根について、その特徴的な成長パターンや他の生物との関わりなど、森林生態系を支える根の姿と役割について紹介します。

2月19日(金曜日)

「木を寝かせる技術」

上村 巧 (林業工学研究領域)

木材を利用するには木を安全に寝かせること(伐倒)から始まります。その技術の変遷と最新の機械やチェーンソー伐倒技能を高める取組について紹介します。

一般の方々を対象に森林総合研究所の研究成果を分かりやすく解説する「森林講座」を多摩森林科学園森の科学館で各日午後1時15分～3時に開きます。受講無料。

◆受講申込み

希望講座名と受講者の郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記したメールまたは往復はがきを下記の申込先にお送りください。1通で1講座3名まで応募できます。講座開催日の前月1日から受け付け、先着順で定員30名に達し次第締め切ります。最新情報は下記2次元コードから「森林講座(2026年度)」ページをご覧ください。

◆講座会場・申込先・お問合せ先

多摩森林科学園

メール: shinrinkouza@ffpri.go.jp

〒193-0843

東京都八王子市市井里町1833-81

お問合せ電話: 042-661-1121

◆「森林講座(2026年度)」ページ

